

“不惑”の誕生祝い、マスターズ連合が 創立40周年を祝う記念式典開催

写真：日本マスターズ連合

1980年の春に発足して40年の歳月を歩んできた(公社)日本マスターズ連合。6月13日、東京都千代田区の日比谷図書文化館・日比谷コンベンションホールに数多くの来賓、マスターズ会員が出席して“不惑”のお祝いを行った。式典後の祝賀会まで、とどこおりなく終えた連合創立40周年式典の模様をお届けする。

人生100歳時代の生き方 記念講演で幕開け

日本マスターズ連合の創立40周年記念式典が6月13日に東京都内で行われた。式典の前に7月号既報の通り、(一社)健康・福祉総研理事長で元滋賀県知事・国松善次氏の記念講演があった。

国松氏は滋賀マスターズ名誉会長でもあり、健康生きがいづくりアドバイザーとして“生涯健康”をテーマに実践している。講演の内容は『人生100歳時代 生き方が問われる』。

- ①「人生100歳時代」という「新時代」
- ②「日本人の老いは『人類初の体験』＝『社会実験?』」
- ③「老いには『2つの道』と『見事な男女差』」
- ④「人生はドラマ、老いが本番」

およそ1時間の講演は国松氏のユーモアを交えつつ、データを示しながらの迫力ある話し方に場内の聴衆が耳を傾け、終了と同時に大きな拍手が送られた。詳細は省かせてもらうが、4つの項目についての中身は、聴く側にとって興味を引くものだった。

祝賀会は和気あいあい 貴重なパンフレットも配布

記念講演の後、14時15分から記念式典に移った。北条愁子アナウンサーが司会し、開式通告の後、物故者を追

悼し黙とう。次に鴻池清司連合会長が主催者を代表してあいさつをした。続いて来賓の祝辞と紹介があり、祝電が読み上げられた。最後に表彰があり、右ページ表の方々が表彰された。

表彰が終わった後、尾崎宏連合副会長が閉式のあいさつをし、記念式典は幕を閉じた。



会場を日比谷松本楼に移し、16時30分から記念祝賀会が開かれた。鴻池連合会長が開宴のあいさつをし、来賓からの祝辞があり、来賓を紹介。乾杯の後、宴たけなわとなり、連合40周年にふさわしく和気あいいのムードだった。最後に室伏重信連合副会長が、お礼の言葉を述べて祝賀会は終了した。

参加者に配られた『創立40周年』のパンフレットは10ページ。鴻池連合会長のあいさつに始まり、歴代会長の顔写真が飾られている。「マスターズ陸上競技の普及発展と生涯健康をめざして」の見出しが躍る。

3ページ目は「日本マスターズ陸上の夜明け」の見出しの下に、鴻池連合



陸連の横川会長のあいさつ。着席左からマスターズ鴻池会長、尾崎副会長、室伏副会長、佐野専務理事



鴻池会長から特別貢献賞。AIG 損保・大野美賀マネージャー

会長が「マスターズ世界選手権に感動1978年、和歌山で産声」「第1回全日本の大会名称は『中高齢者陸上競技選手権大会』だった」の二段構えの見出しがあり、日本マスターズ誕生までの経過がまとめられている。

4～8ページにかけては「マスターズ陸上」の名場面が写真で特集されている。最初の4ページ目は「設立初期、全国各地の同志から協力・応援され、マスターズ陸上の輪が大きくなってい

きました」の見出し。

5ページ目は「若い時代にはなかった感動の数々、仲間を増やし、活力がみなぎったマスターズ陸上の発展期」と称し、都道府県対抗駅伝を走る君原健二氏の写真はかが紹介されている。

6ページ目は2009～12年の全日本マスターズ選手権で活躍する選手たちの写真。「また会いましょう！ また走りましょう！ 楽しいから続けられる」の見出しが付けられている。

7ページ目は2013～16年の全日本マスターズ選手権での躍動感あふれる写真がずらり。見出しは「世界新、日本新、自己新 いくつになってもチャレンジしたい」

8ページ目は2017～18年の写真が整然と並ぶ。「本気、夢中、最高！ 全てのマスターズアスリートに金メダルを」の紹介見出しで、写真特集が締めくくられている。

残る9ページと10ページ目は「40年の歩み」を年表で。最後のページは「輝くマスターズアスリート」として「今できることに全力を尽くして達成する喜び 世界記録を保持する生涯アスリートたち」と、男女の記録ホルダーを紹介してある。

連合40周年をまとめ上げてある貴重なパンフレットだ。

鴻池連合会長のあいさつ

光陰矢の如し。多くの皆さま方のご支援ご協力により、本連合は今年創立40周年を迎えることができました。ご尽力いただきましたすべての皆さまに深謝いたします。

1980年4月、他のスポーツに先駆けて本連合を創立。日本初の五輪金メダリストである織田幹雄先生はじめ、偉大な歴代会長、皆さまに支えられて40年。感無量です。まことにありがとうございます。

人生100年時代。「四十にして惑わず」。これからが本連合の真骨頂。本連合が中心となり、生涯スポーツの

発展に寄与いたしましょう。

世界有数の長寿国日本で、2020東京五輪、2021ワールドマスターズゲームズ関西の開催が迫るなか、スポーツへの関心が高まり、マスターズスポーツにも追い風が吹いています。

健康寿命の延伸に努め、マスターズピックの早期実現が私の夢です。傘寿を迎えても、夢は大きく、余生をかけて全力疾走しています。皆さま方のご理解ご支援を切にお願い申し上げます。



上記は鴻池連合会長が「創立40周年」のパンフレットに掲載したあいさつの文章だ。創立40周年記念式典に参加されなかった方々のために紹介した。

一方、式典の予定と受賞者名が掲載されている文書にも鴻池連合会長のあいさつがある。パンフレットに載せてあるあいさつと異なる部分を紹介してみる。



連合創立のきっかけは、鴻池連合会長が1977年スウェーデンで開催された第2回世界マスターズ選手権に参加したことによる。同選手権への参加をきっかけに「1980年マスターズ陸上競技を通じて、生涯スポーツの普及・振興を図り、広く心身の健康と人生の充実」に寄与する」を目的に連合を発足させた。

連合は「国内大会に収まらず1993年には第10回世界ベテランズ選手権大会を、1995、2014年には2度にわたりアジアマスターズ選手権大会を開催。世界ロード選手権大会等世界のアスリート達と技を競い、友好の輪を広げ、スポーツを通じて国際交流と世界平和に貢献して参りました」

「2014年には公益社団法人の認可を得、急速な進展を見せる高齢社会のなかで、益々生涯スポーツとして『マスターズ陸上競技』の果たす役割を痛感いたしております」

特別功労賞

鴻池 清司(日本マスターズ連合創設者)

功労賞(連合推薦者)

織田 和雄 岡 桂子

大串 啓二 海老澤武雄

井口 輝男 大嶺 秀宣

八重樫輝男

功労賞(連盟推薦者)

角谷 信(北海道) 高橋 清尊(滋賀)

芳賀 一博(青森) 故・宮崎秀吉(京都)

千田 義正(岩手) 山中 保博(大阪)

沼津 節生(宮城) 増田 皓三(兵庫)

池田 正(秋田) 折橋 洋二(奈良)

佐藤 幸夫(山形) 福島 妙子(和歌山)

伊藤 堯信(福島) 岩垣 成紀(鳥取)

半井 清夫(茨城) 吾郷 昭夫(島根)

四ツ谷辰栄(栃木) 黒木 文夫(岡山)

中村 哲也(群馬) 中田 正直(広島)

鈴木 信彦(埼玉) 上野 直己(山口)

宮川 雅(千葉) 加藤 順曠(徳島)

来田 悦一(東京) 河合 英幸(香川)

泉山 信義(神奈川) 正岡 建雄(愛媛)

石川 正男(山梨) 公家 靖孝(高知)

柴野 三郎(新潟) 藤川千加子(福岡)

中西 邦康(富山) 澤田 剛(佐賀)

山本 敦(石川) 貝原 幸三(長崎)

八木 実(福井) 川上 明生(熊本)

堀 浩(長野) 東 富雄(大分)

高橋 正(静岡) 肥田 一郎(宮崎)

永田 敏也(愛知) 浜崎 行雄(鹿児島)

小池 良司(岐阜) 森山 一成(沖縄)

徳地 和子(三重)

特別貢献賞

AIG損害保険株式会社

(全日本マスターズ陸上競技選手権大会特別協賛社)

アシックスジャパン株式会社

(日本マスターズ陸上競技連合協賛社)

特別表彰

朝日新聞社

(全日本マスターズ陸上競技選手権大会主催)

力武 敏昌

(連合発足当時から陸上競技専門誌に記事配信)

※敬称略



以上、盛り上がりのうちに連合40周年記念式典は終了した。さらなる向上を目指して、マスターズ陸上は前向きな姿勢で進むだろう。